



災害対応型自動販売機の設置について

質問

底堅い災害対策のために市内の避難所、庁舎に災害対応型自動販売機を設置する必要がある。現在、複数台設置されているが、今後の入札の際に適宜増やしていく考えはあるか。

答弁

災害対応型自動販売機は災害時の円滑な飲料の供給に大きな役割を果たすものだ。今後も施設の利用者数や設置台数を考慮の上、増設に努める。



▲市役所条里南庁舎にある災害対応型自動販売機。停電時にボタンを押すことで飲料を取り出すことができる。

質問

今年度末と来年度末に更新期限を迎える自販機のある公共施設のうち、3施設は従来型の自販機が複数台設置してある。利用者数、設置台数を考慮するならば、その施設について1台は災害対応型自販機を設置すべきだ。

答弁

管財課とも検討しながら前向きに進めていく。

質問

那須塩原市はwifiと非常食供給機能を加えた災害対応型自販機を設置し、市民の安全・安心感を高めている。その必要性について伺う。



▶那須塩原市役所に設置しているwifi+非常食供給機能付き災害対応型自販機。飲料提供に加え、インターネット接続が無料になり、大規模災害時には無制限に利用可能。そして乾パン等の非常食が備蓄できる。

答弁

大変興味深いですが、公共施設や道の駅ではすでにwifiスポットの整備が進んでいる。また、災害防災計画の改定にあわせ、飲料などの備蓄計画を見直している。現時点で設置する可能性は低い。

質問

wifiスポットの整備が進んでいるというが、公共施設の避難所のうち100ヶ所以上は整備されていないのではないか。

答弁

確かにそうだ。しかし、まずは自家発電で停電の対応はしていきたいので理解してほしい。

来年度以降の市役所体制について

質問

今後の2年間で定年による幹部職員の大量退職が発生する。それ以降もしっかりとした体制を構築するためには、40歳代の係長の「質」を高めていくことが必要だと思うが、市長も同じ認識か。

答弁

係長・主査級の職員は将来の横手市を牽引する原動力となる立場だと認識している。課長代理・副主幹を含め、全職員の質の向上を図る。

質問

認識は共有できた。では、将来の幹部候補生たる係長に、今何を教えていくのか、何を自覚してほしいと考えているのか。

答弁

係長だけでなく全職員に言っているのが「部局横断」である。部下を育てていく以上に、縦割りにならないよう広い目線を持つことが大事。係長に求められる範囲は広がっているので期待している。

質問

それに加えて「場数を踏む」のも大事だ。議会や市民に対して積極的に説明する機会を与えていくべきだ。失敗してもそれが糧と

